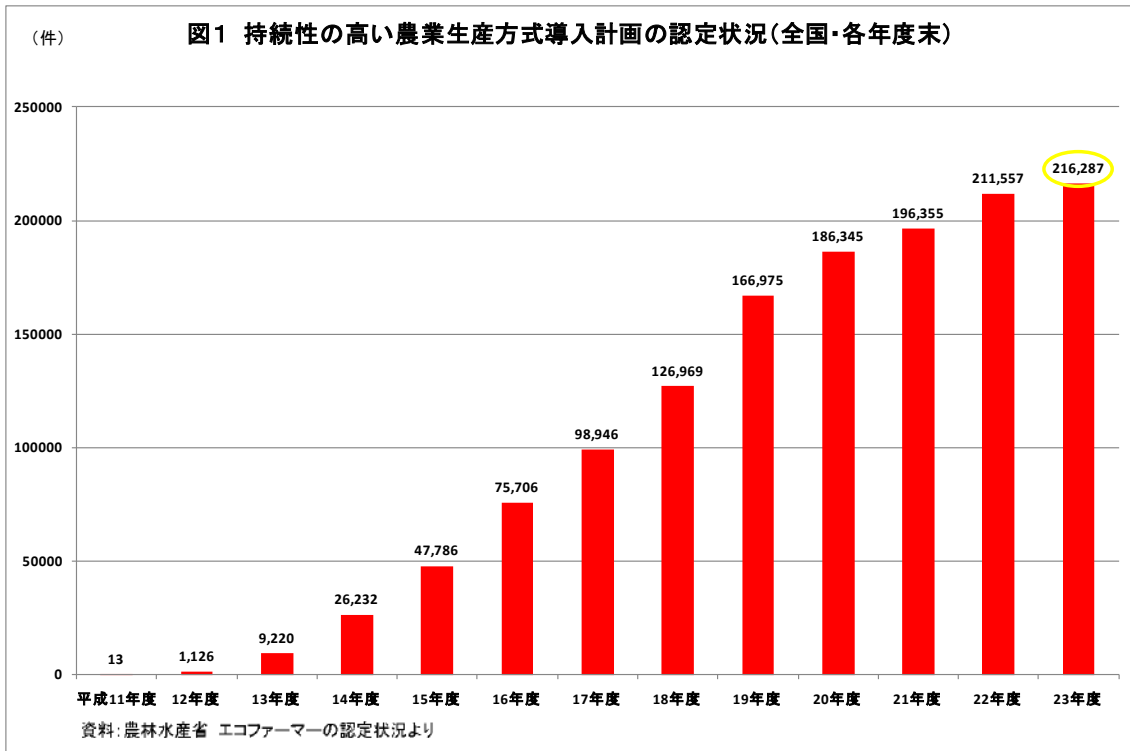


# 環境こだわり農業への取り組みが積極的な滋賀県

現在、日本の農業を取り巻く環境は大きく変化しようとしている。食料の安全性の確保、農業ビジネスによる産業振興などに注目が集まるなか、環境負荷の少ない農業を実践する農業者の認定制度「エコファーマー制度」から、滋賀県の環境へこだわった農業への取り組みをみてみたい。

## 1. 「エコファーマー制度」とは

「エコファーマー制度」とは、平成11年7月に制定された「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」に基づき、農業者が「土づくり技術」、「化学肥料低減技術」、「化学農薬低減技術」を一体的に取り組む計画（5年後を目標）を作成し、知事はその農業者を環境保全型農業を実践する農業者として認定する制度のことであり、この認定された農業者を「エコファーマー」と呼ぶものである。「エコファーマー」の認定件数は、平成11年の制度発足以降、環境意識の高まりとともに増加しつづけ、平成23年度末現在では、全国で216,287件の農業者が認定されている（図1）。

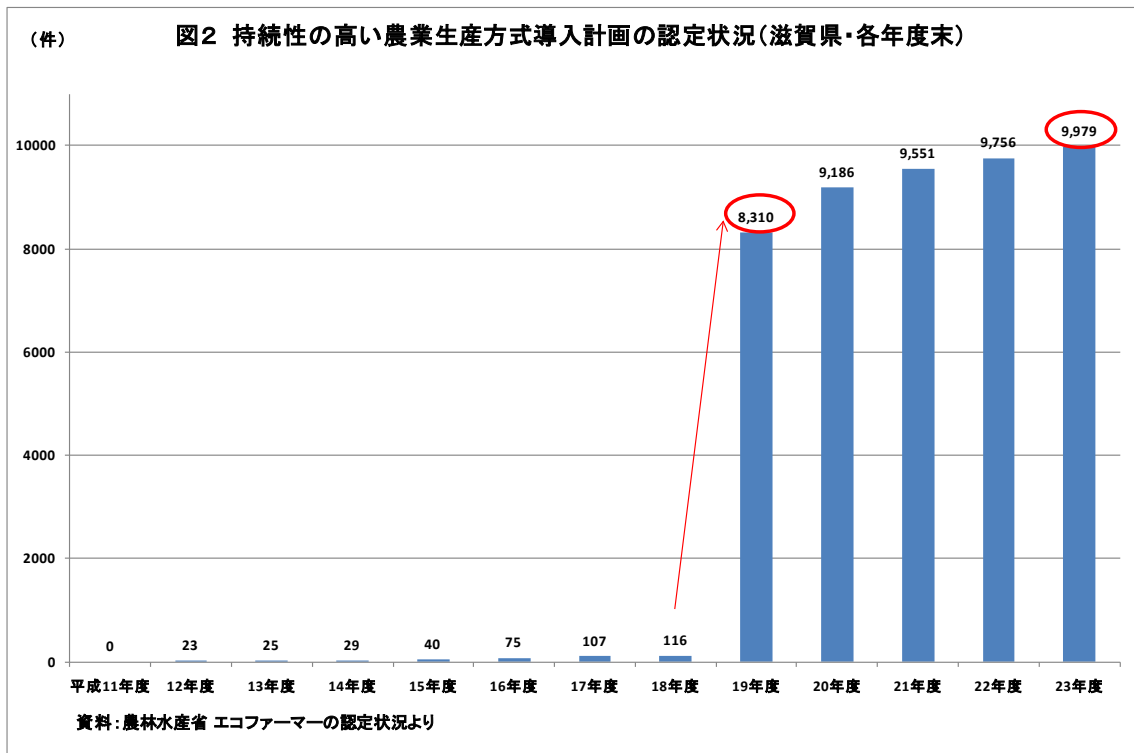


## 2. 年々増加を続ける滋賀県の「エコファーマー」

次に、滋賀県の「エコファーマー」の認定状況をみると、平成11年度の同制度開始以降は低調に推移していたが、平成19年度に8,310件と前年比約71倍と大幅に増加した。

平成19年度より国の「農地・水・環境保全向上対策」が開始され、「エコファーマー」の認定を受けたうえで一定の要件を満たすと、先進的営農活動支援交付金などの営農支援を受けることができるようになったことが、大幅増加の要因となっているようだ。

その後も、年々増加を続けており、平成23年度末の認定件数は9,979件となり、制度開始以来、最も多い件数となった(図2)。



### 3. 滋賀県の「エコファーマー」認定件数は近畿でトップ

また、平成23年度の滋賀県の「エコファーマー」の認定件数は、近畿2府4県で最も多く、次に多い兵庫県の2,057件の4倍超の件数となった。全国でみても「第6位」であり、土づくりと化学肥料・化学合成農薬の低減につとめ、環境にやさしい農業を実践する取り組みが滋賀県では、他府県と比べて高い水準で行われており、琵琶湖を有する滋賀県の農業者の環境意識の高さがあらわれた結果となった（表1）。

表1 持続性の高い農業生産方式導入計画の認定状況(平成23年度末)

順位	都道府県	認定件数
1	福井県	21,108
2	福島県	21,091
3	新潟県	15,548
4	熊本県	10,443
5	山形県	10,066
<b>6</b>	<b>滋賀県</b>	<b>9,979</b>
	〽	
27	兵庫県	2,057
	〽	
29	和歌山県	1,752
	〽	
36	京都府	990
	〽	
39	奈良県	636
	〽	
47	大阪府	5
-	全国	216,287

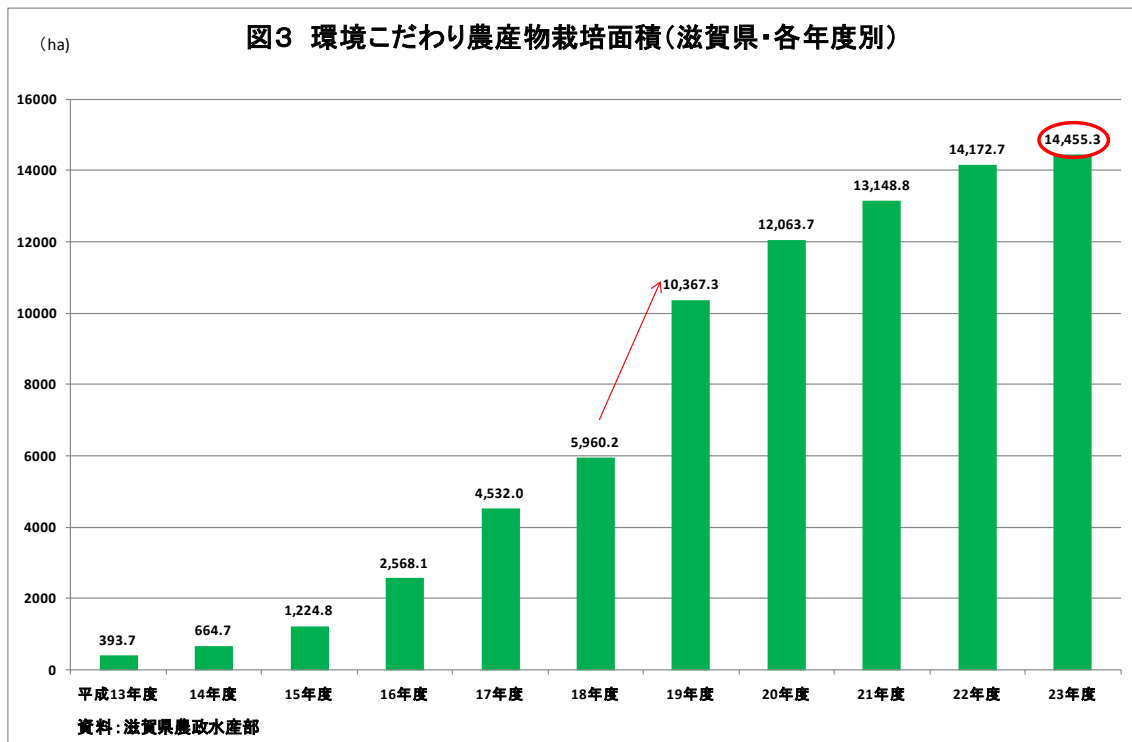
(資料) 農林水産省 エコファーマーの認定状況  
平成24年3月現在の認定件数より

#### 4. 「環境こだわり農産物の栽培面積」も平成19年度から急増

滋賀県では平成15年度に「環境こだわり農業推進条例」を制定し、環境にこだわった農業の推進に力をいれている。平成19年度からは「農地・水・環境保全向上対策」における「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」として農地や農業用水、農村の豊かな自然環境を守る活動に支援する取り組みを行ってきた。

「エコファーマー」に認定された農業者が、化学肥料や農薬の使用量削減、土壌改良や濁水の流出防止といった環境への負荷を低減する一定の要件を満たして生産した農産物を「環境こだわり農産物」として認定し、交付金の支給や県内外への積極的なPRを行う取り組みもそのひとつである。

「エコファーマー」の認定件数と同様に、この平成19年度から、「環境こだわり農産物」の栽培面積も大幅に増加した。平成23年度からは、対策名を「環境保全対象型農業直接支援対策」とあらため、要件も「地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動をあわせて行う」などより厳しくなったが、「環境こだわり農産物」の栽培面積は14,455.3haとなり、過去最高となった(図3)。



#### 5. おわりに

現在農業を取り巻く環境は劇的に変化しようとしている。食料の安定確保や食の安全性へのニーズはさらに高まることが予想されるなか、全国でも比較的高い水準で取り組まれている、滋賀県の環境こだわり農業への取り組みがさらに広まり、農業ビジネスによる産業振興につながっていくことに期待したい。

2013年3月  
株式会社しがぎん経済文化センター  
上村 彰吾